

11月に入り、少し厚めの上着が必要なくらいの寒さになってきました。同じ時期の栃木県の気温に比べれば寒いと嘆くわけにもいきませんが、最近の杭州市の天気は専ら曇りや雨のために日中から気温が低い日が多くなってきました。昼と夜の温度差が激しい栃木県と比べ、一日中寒さ対策をしなければならぬため少し大変です。加えて空気の方も、



注意報が出るほど汚染される日も出てきました。左の写真は大学の近くで撮った注意報が出た日の杭州の様子です。夜に撮ったため少し分かりづらいですが、朝方の霧が濃い時間帯と同じくらいの見通しの悪さではないかと感じました。

11月の中旬には、学生の敵である中間テストが遂にやってきました。科目は精読(精读)、読解(阅读)、会話(口语)、リスニング(听力)の4科目ありました。私は、会話(口语)とリスニング(听力)があまり得意ではなかったのですが、両科目とも思いのほか点数が取れていたため安心しました。特にこれといった勉強法はないのですが、町に遊びに出たときには積極的に店員と会話をするように心がけています。最初は訛り(特に若い人は、はっきりと発音しない人が多い)などもありほとんど聞き取ることはできませんでしたが、最近になって何とか単語を拾ってある程度の意味を理解できるようにはなってきました。さらに、私のクラスメイトは中国語を話すのが上手な学生ばかりで、会話は常に中国語という環境にあるため、会話の上達につながったのではないかと思います。

テストが終わってすぐの週末にはクラスみんなで大学横のメキシカンのお店に食事に行きました。下の写真がクラスメイトと料理の様子です。見ての通り、クラスメイトは世界



各国様々な地域から留学に来ている学生ばかりで、とても愉快的な学生ばかりです。特にアメリカとイタリアの学生は、中国語が上手なだけでなく、ダンスも上手で皆を楽しませてくれます。ダンスも国によって雰囲気が異なり、ステップを踏む人もいれば、身体全体を使って踊る人もいて、楽しみながら異文化に触れることができ、とても有意義な時間を過ごすことができました。

今月のレポートの最後に、私が中国に来て一番好きになった調味料を紹介したいと思います。左下の写真がその調味料で、名前は泡辣椒（パオ・ラー・ジャオ）といます。これ



は、唐辛子とニンニクを塩水に漬けておいたもので、どの料理に加えてもとてもおいしくなるため、私はこれが大好きになりました。これを置いていないお店があると、無いのかと尋ねるくらいです。ご飯ものや麺類など、様々な料理に合うので、中国に来た際には食べてみることをお勧めします。中国の食堂には、ほとんどのお店にこうした調味料が2つから3つほど必ずと言っていいほど置いてあります。中国の人たちはこうした調味料を料理に合わせて使っており、大抵は辛さを増すものを好んで使っているようです。四川料理が辛い料理で有名ですが、遠く離れた浙江省杭州市でも辛い食べ物を好んで食べていることから、こうした食べ物の嗜好は国民的なものなのではないかと感じました。また面白い中国の食べ物などがあれば次回紹介したいと思います。